



第65期 中間株主通信

(2019年4月1日～2019年9月30日)



ヤマシンフィルタ株式会社

証券コード：6240

株主メモ

上場市場	東京証券取引所市場第一部
上場日	2014年10月8日（東京証券取引所市場第二部）
証券コード	6240
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヵ月以内
基準日	定時株主総会については3月31日
配当の基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
連絡先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 Tel：0120-288-324（通話料無料） （受付時間：土日祝祭日等を除く 平日午前9時～午後5時） 株式に関するお手続き（みずほ信託銀行） https://www.mizuho-tb.co.jp/corporate/daikou/index.html
株式の売買単位	100株
公告掲載URL	公告は電子公告により行います。 http://www.yamashin-filter.co.jp/ ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式等に関するマイナンバーお届出のご案内

2016年1月から、社会保障、税、災害対策の行政手続きにおいてマイナンバーの利用が開始されています。

株式等の税務関係の手続きでもマイナンバーが必要となりますので、株主さまのマイナンバーについては、お取引の証券会社等へお届出ください。

〈上場株式等をお持ちの株主さま〉

証券会社等にて株式等を管理・購入・取引されている場合には、証券会社等へお届出いただく必要があります。お手続き方法など詳細につきましては、証券会社等へお問い合わせください。

*不動産投資信託(REIT)、ETF、JDR等の国内証券取引所にて取引される株式以外の金融商品も含まれます。

マイナンバーを
記載する主な支払調書

* 配当金等に関する支払調書
* 単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

〈未上場株式をお持ちの株主さま〉

ご所有の株式の発行会社または株主名簿管理人にお届出いただく必要があります。お手続きの詳細につきましては、株主名簿管理人にお問い合わせください。

マイナンバー 制度について

マイナンバー制度^(注)とは、国民一人ひとりに配布された番号によって、複数の行政機関に存在する個人の情報を正確に連携させるための社会基盤です。

(注)行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律(平成25年5月31日法律第27号)

マイナンバーの 取扱いについて

マイナンバーの取扱いは、法律により厳格な保護措置が設けられており、利用範囲は社会保障・税・災害対策の行政手続きに限定されています。

マイナンバーの 提供について

2016年1月以降、新たに証券会社とお取引をされる株主さまは、マイナンバーを証券会社に提供する必要があります。2015年12月以前より証券会社とお取引をされている株主さまも、2018年末までにはマイナンバーの提供が必要です。

マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先

- 証券口座にて株式を管理されている株主さま…お取引の証券会社までお問い合わせください。
- 証券会社とお取引がない株主さま…下記株主名簿管理人のフリーダイヤルまでお問い合わせください。

みずほ信託銀行 証券代行部 フリーダイヤル 0120-84-0178

IR伝言板

株式会社アクシーの全株式を取得し 完全子会社化しました

当社は、大阪に本社を置き、空調用フィルタ製造販売業を展開してきた株式会社アクシーを、2019年8月23日付で100%子会社化しました。

株式会社アクシーは国内粗塵フィルタ市場で大きなシェアを有し、企画・開発から製造・販売・アフターサービスまで一貫して自社で行う垂直統合型企業であり、その品質や技術力は高く評価され、エアフィルタ業界で確固たる地位を築いております。また、直近5か年は堅調な業績で推移しており、安定した財務基盤を維持しています。

当社の油圧フィルタ事業を基にした事業領域にエアフィルタ事業を取り入れ、ビジネス領域を拡大することで「総合フィルタメーカー」へと飛躍を遂げることを企図し、今後、当社グループの成長を加速するとともに、相互の技術・製造・販売チャンネルを活用し、さらなる新製品開発と販売の拡大を目指してまいります。

また新素材「YAMASHIN NANO FILTER」を活用した、既存製品の付加価値を高めた製品ラインナップの拡充を図ることにより、さらなる企業価値の向上に努めてまいります。

会社概要



株式会社アクシー
本社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南1-1-20

創 業 1962年7月
設 立 1968年12月
資本金 5,000万円
代表者 代表取締役社長 渡邊 健
代表取締役副社長 小林 清史
従業員 98名

<http://www.aqcnet.com/>



代表取締役社長 山崎 敦彦

仕渡過事

ろかじにつかふる

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

ここに、第65期中間株主通信(2019年4月1日から2019年9月30日まで)をお届けいたします。

当社は建設機械フィルタの専門メーカーとして60年を超える実績をもち、建設機械メーカーとともに性能・品質の向上にまい進してまいりました。今後も健全、着実な事業成長を図ることで、常に最高品質のフィルタを広く社会に送り出し、挑戦しつづける企業を目指していきます。

引き続き、株主の皆様のご期待に添えるよう努力を続けてまいりますので、より一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしく申し上げます。

2019年12月

Q1 2020年第2四半期(当四半期)の業績と取り組みについてお聞かせください。

A1 当四半期における当社グループの主要市場である油圧ショベルを中心とした建設機械市場においては、日本では公共投資や設備投資は増加基調が継続し、需要は前年並みとなりました。北米および欧州では、米中貿易摩擦の懸念やEU離脱問題の先行きに不透明さが残るなか、需要は堅調に推移しました。中国では米中貿易摩擦の長期化による景気減速が伝えられるなか、中国政府主導による公共事業への投資底入れにより建機需要は下支えされており、年間で最も需要の高まる春節期や2020年12月実施予定の第4次環境規制対応に向けた新車の駆け込み需要等が見込まれます。こうしたなか、中国系建機メーカーの市場占有率は顕著に拡大し、その結果、当社の主要得意先各社の市場占有率は減少傾向にあります。一方、東南アジアでは、インフラ整備に伴う潜在的な需要は堅調が見られるものの、中国市場と同様、中国系建機メーカーの市場占有率の拡大に伴う当社の主要得意先の市場占有率の減少がみられ、当第2四半期においては、インドネシア、タイ、フィリピンでの国政選挙の影響による公共投資の抑制が継続し、需要は一時的に減少しました。このような環境のなか、当社グループの既存ビジネスである建機用フィルタ事業においては、当社の強みである油圧ショベルの作動油回路用フィルタ製品を軸に、新素材やIoT技術を活かしたフィルタ製品のラインナップの充実を図り、補給部品の純正率向上に建設機械メーカーと共同で取り組み、純正部品の採用率向上に努めました。とりわけ、世界の建機の新車販売の約半数を占め、環境規制による新車需要が見込まれる世界最大の市場である中国において、当社製品の中国系建機メーカーの採用率の向上に向けた取り組みを強化しており、来期以降の当社建機用フィルタビジネスに大きく貢献することが期待されます。以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は58億11百万円(前年同四半期比18.5%減)となり、営業利益は3億88百万円(同64.2%減)、経常利益は2億86百万円(同73.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億87百万円(同76.9%減)となりました。

Q2 2020年3月期(通期)の取り組みと業績予想についてお聞かせください。

A2 当社グループの新たな事業ポートフォリオの拡大に向けた取り組みとして、M&Aによる新規事業分野への進出を課題としておりますが、当社は2019年8月23日付で株式会社アクシーの株式を100%取得し、完全子会社化いたしました。株式会社アクシーは空調用のエアフィルタの製造販売を事業とする国内有数のフィルタメーカーであり、中でも粗塵フィルタ、中高性能フィルタ市場においては、その生産体制や技術力が高く評価され、確固たる地位を築いております。当社が量産化技術を確立した合成高分子系ナノファイバー「YAMASHIN NANO FILTER」と株式会社アクシーの生産技術力および販売チャネルとの掛け合わせにより、より付加価値の高いエアフィルタ製品のグローバル供給が可能となります。

当社グループに株式会社アクシーが合流することで、当社グループの事業ポートフォリオにエアフィルタ分野が加わり、第二の事業の柱が創出されることとなります。さらには、事業ポートフォリオの拡大に向けたもう一つの取り組みとして、国内大手エアフィルタメーカーに対し、秋冬物衣料の中綿材として、保温性、調湿性、薄さという3つの特性を活かした「YAMASHIN NANO FILTER」の量産供給を開始いたしました。

このように、当社グループは、建機用油圧フィルタならびにエアフィルタ事業の2つの事業ポートフォリオを中心に、新たに開発した合成高分子系ナノファイバーの量産化技術を基に、積極的な事業ドメインの拡大を図り、グループ経営基盤の強化に努め、企業価値の向上を図ってまいります。

通期の業績予想につきましては、前回予想を公表した2019年5月15日時点と比較し、日米欧の市場環境は堅調に推移し、最大の建機市場である中国市場は年間で最も需要の高まる春節期や、2020年12月実施予定の第4次環境規制対応に向けた新車の駆け込み需要等が見込まれております。しかしながら、品質の改善や価格競争力で勝る中国系建機メーカーの中国・東南アジア市場での占有率の急激な上昇により、当社主要得意先である日系建機メーカーを中心に、中国市場を中心としたアジア市場でのプレゼンスは大きく後退を余儀なくされています。このような市場環境を踏まえ、当社主要得意先各社の下期以降の新車生産計画は中国市場向けを中心に大幅な減産計画が行われる見通しとなりました。一方、第4次環境規制対応新機種開発が進む中国系建機メーカーへの当社純正リターンフィルタを中心とした新規採用は、国営最大手2社を中心に他の中国系建機メーカーに対する積極的な営業展開により、来期以降の当社建機用フィルタビジネスに大きく貢献することが期待されます。以上のように、最大の建機市場である中国市場での当社主要得意先各社の市場占有率の大幅な減少に伴うフィルタ売上の減収速度が、その減収を十分に補完するための新規中国系建機メーカーへの純正フィルタ売上の増収の速度に半期間ほどの乖離が生じている結果、建機フィルタ事業の通期事業見通しの修正が必要となりました。

そのため、通期業績予想は、売上高134億円(前期比3.0%減)、営業利益12億50百万円(同36.3%減)、経常利益11億35百万円(同40.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益8億円(同43.3%減)となる見込みです。

Q3 最後に株主の皆様にごメッセージをお願いします。

A3 当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと位置付けたうえで、財務体質の強化と今後の事業展開に必要な内部留保の充実を勘案し、安定した配当政策を実施することを基本方針としております。上記の基本方針ならびに当社を取り巻く経営環境等を総合的に勘案し、中間配当については1株につき3円とすることとし、期末配当予想については1株につき3円とします。これにより、年間の配当予想は6円となる予定です。

株主の皆様には今後とも末永いご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしく申し上げます。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度末 (2019年3月31日)	当第2四半期末 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産	15,391	16,175
固定資産	5,641	4,926
有形固定資産	3,540	4,156
無形固定資産	346	340
投資その他の資産	1,754	429
資産合計	21,032	21,101

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度末 (2019年3月31日)	当第2四半期末 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債	2,353	2,475
固定負債	565	627
負債合計	2,919	3,102
純資産の部		
株主資本	18,063	18,009
その他の包括利益累計額	49	△10
純資産合計	18,113	17,998
負債純資産合計	21,032	21,101

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前第2四半期 (2018年9月30日)	当第2四半期 (2019年9月30日)
売上高	7,127	5,811
売上原価	3,751	3,175
売上総利益	3,375	2,636
販売費及び一般管理費	2,290	2,248
営業利益	1,085	388
営業外収益	11	7
営業外費用	20	108
経常利益	1,076	286
特別利益	—	16
特別損失	4	0
税金等調整前四半期純利益	1,071	303
法人税等	263	116
四半期純利益	808	187
親会社株主に帰属する四半期純利益	808	187

連結財務ハイライト



News & Topics

当社開発の新素材「YAMASHIN NANO FILTER」が、このたび紳士服メーカー様2社の秋冬コート等に使用され、販売開始となりましたのでお知らせいたします。

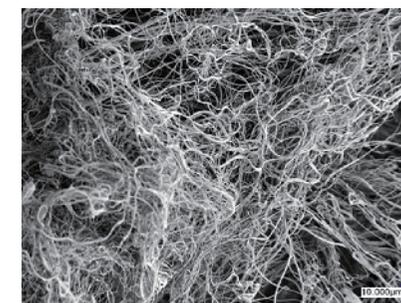
A社の高性能ビジネスウェアは、当社の「YAMASHIN NANO FILTER」が中綿に使用され、コートの中綿としては今までにない薄さと保温性・調湿性が実現しました。

また、B社が製造販売する超保温性能を搭載したストレッチコートも、ダウン並みの暖かさでありながら厚みにおいては70%減と、「薄くて暖かい」が実現しています。

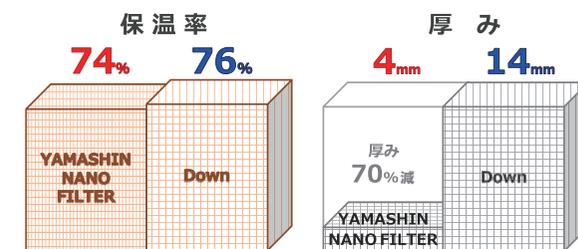
今秋冬に発売された2社の商品は、ともに最先端技術のナノファイバーを世界で初めてアパレル用に量産開発した革新的な保温性を実現する中綿として、アパレル業界でも注目されています。

詳しくは、当社ホームページをご覧ください。

当社はアパレル業界を皮切りに、今後、従来の建機フィルタ業界とは異なる新分野へと挑戦を続けてまいります。株主の皆様におかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願いいたします。



ナノファイバー 電子顕微鏡イメージ(10,000μm)



*第三者機関による評価結果

YAMASHIN NANO FILTERと一般的なダウンの比較評価結果

製品ページ [【http://www.yamashin-filter.co.jp/ja/nano.html】](http://www.yamashin-filter.co.jp/ja/nano.html)

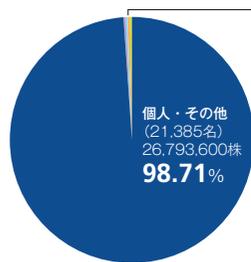
会社概要 / 株式の状況

会社概要 (2019年9月30日現在)

商号	ヤマシンフィルタ株式会社 (旧 山信工業株式会社) (英文名称 YAMASHIN-FILTER CORP.)
所在地	〒231-0062 神奈川県横浜市中区桜木町1-1-8 日石横浜ビル16階
設立	1956 (昭和31) 年4月
事業内容	建設機械用フィルタ・産業用フィルタ・プロセス用フィルタ及び 関連部品の製造・販売、ナノファイバーの開発・製造・販売
資本金	5,434百万円
代表者名	山崎 敦彦
従業員数	単体：169名 連結：706名
認定・取得	ISO9001：2015 (JIS Q 9001：2015) 認証取得 ISO14001：2015 (JIS Q 14001：2015) 認証取得

株式の状況 (2019年9月30日現在)

発行可能株式総数 203,580,000株
発行済株式の総数 69,190,000株
株主数 21,633名



証券会社 (22名)	137,368株	0.10%
外国法人等 (109名)	4,220,427株	0.50%
金融機関 (20名)	12,885,500株	0.09%
その他国内法人 (126名)	25,152,950株	0.58%
自己名義株式 (1名)	155株	0.00%

株主名	所有株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社やまびこホールディングス	24,055	34.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	5,785	8.3
山崎 裕明	3,814	5.5
山崎 敬明	3,814	5.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	1,343	1.9
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	1,314	1.9
山崎 敦彦	997	1.4
株式会社三井住友銀行	900	1.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	799	1.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	730	1.0

特集

仕濾過事 ヤマシンフィルタの歩み

第7回 「濾過事に仕ふる」



創業者 山崎正彦

当社初代社長の山崎正彦がT社の下請けを解消して独自の道を選び取った昭和42 (1967) 年当時、日本を代表する建機メーカーK社は新しい海外市場としてカナダ、ソ連 (現在のロシア) にターゲットを絞り、従来とはまったく異なるタイプの建機機械「パイプレイヤ」を開発しようとしていました。その名のとおりに、巨大なパイプを運搬し所定の位置にすえつけるパイプ敷設用機械です。

第二次大戦後、世界中の国々が経済が急速に成長していくなか、大量の石油を必要とする時代が迫りつつありました。主な供給地は中東ですが、中東以外の新しい油田開発の必要性があちこちで指摘されるようになってきたのです。ところが有望な油田は、シベリアのチュメニ、アラスカのプルドーベイなど、いずれも自然条件の厳しい地域に集中していたのです。これらの地域で採掘される原油を遠くはなれた工業地帯まで輸送するためには、長距離パイプラインが必要になります。

K社はそこに注目し、大型で性能の良いパイプ敷設用機械の開発に着手したところでした。大型建機ですからすべての作業は油圧によって動くように作られますが、その油圧システムをスムーズに動かすために欠かせないのが、フィルタです。K社は当初、当社が下請けを行っていたT社とほか1社を想定していたようですが、どちらも自動車用エレメントを主とするメーカーだったため、その選考は白紙に戻されてしまいました。K社内で行った独自実験では、建機の油圧システムはその作業内容によって作動油の流量変化や圧力変動が激しく、自動車用フィルタではとうていその激しい衝撃に耐え切れないと考えたのでし

た。生半可なフィルタやエレメントでは、破裂してしまいます。相当な圧力と衝撃に耐えられる頑丈なフィルタでないと務まりません。

下請け解消後、新たな売り込み先を探していた山崎は、K社がパイプレイヤ用として圧力や衝撃に強いフィルタを探していると聞き、独立と生き残りをかけて売り込み攻勢をかけました。そして、K社の条件を満たすフィルタエレメントの開発に夢中になりました。

*

昭和42 (1972) 年、日ソ経済協力が正式に結ばれ、ソ連と日本によるシベリアのチュメニ油田の共同開発が正式に決定しました。東西冷戦が続くなかで、ソ連は独自で油田開発を行おうと懸命になっており、一日も早い開発と実用化が待ち望まれていたのです。

そして、K社の未来を左右するほど大きなプロジェクトであることから、社内の熱い期待を一身に集めた視察団は現地に向かいました。

油圧担当者は、摂氏-50℃近く下がる環境のなかで、実験と作業に明け暮れました。日本では高温になって液状に流れる作動油が想像を絶する低温下によってバターのように固まってしまうのです。

帰国した油圧担当者は、「作動油がバターのように固まる環境では、どんなフィルタだつてろ紙のプリーツは一度につぶれてしまいます。これを解決しないとパイプライン計画そのものが頓挫してしまいます」。

「バター状に固まる極寒に対して町のフィルタ屋が何をできるだろう」。自問自答しながらも、山崎は寝食を忘れて新しいフィルタの開発に取り組んだのです。そして、エレメントの強度もさることながら、その最大の生命線は何よりそのろ過精度にあると考えました。

“アブソリュート3ミクロン”。それが当時から山崎が目指したフィルタエレメントの精度でした。3ミクロンの不純物まで濾し取れるようでない油圧システムの円滑な運転は見込めないという、山崎のフィルタへの思いを込めた数字でした。実際、昭和40年代までは作動油に紛れ込んだ不純物による不具合が数多く起こっており、そのため「油圧フィルタなんて使わないほうがよく動く」という整備工すらいました。

高精度のフィルタを作って、円滑な作業には良いフィルタが必要不可欠だということを日本中の技術者にわかってほしい。己の人生をかけてフィルタ作りに邁進しよう。フィルタ作りを通じて社会とかかわり貢献しようという思いを込めて、当社社是「仕濾過事 (濾過事に仕ふる)」は生まれたのでした。

*

そして、K社による低温下で固まりにくい特殊作動油の開発を受け、山崎は“アブソリュート3ミクロン”のエレメントを売り込み、紆余曲折を経て、昭和52 (1977) 年、K社の一大プロジェクト「ソ連向けパイプレイヤ」のフィルタは当社が引き受けることになりました。(続く)

